

〔新装版にあたって〕本書は1984年の初版刊行以来、幸いにも多くの読者を得て版を重ねることができた。惜しくも著者は2018年に逝去したため、このたびの新装版の製作に際しては、著者の薫陶を受けた山田義雄氏（早稲田大学名誉教授）が遺族の了解の下、全面的な見直しを行い、著者も生前気にかけていた明らかな誤植や内容の誤りをできるだけ訂正した。

●朝倉復刊セレクション〈新数学講座〉『非線型数学』（増田久弥著）正誤表

頁	行	章	セクション	誤	正【注】
ii	上から2行目		まえがき	水町竜一氏	水町龍一氏
14	上から14行目	1	§.7：式 (7.6)	$g_x$	$g_y$
14	下から12行目	1	§.7：式 (7.7)	$g_x$	$g_y$
14	下から4行目	1	§.7	$g_x$	$g_y$
14	下から2行目	1	§.7：2カ所	$g_x$	$g_y$
15	上から3行目	1	§.7	$g_x$	$g_y$
46	下から8行目	3	§.19	各 $C_0$	各 $C_0$ 【普通の下付きに】
66	上から6行目	3	§.26	$0 \in \Omega$ . 故に,	$0 \in \Omega$ であり, $h(v,0)=0$ を満たす唯一つの解. 故に,
67	最下行	3	§.26	(26.7)を示している.	これは(26.7)を示している.
70	上から3行目	4	§.27	上下に有界と	上で下に有界と
77	下から12行目	4	§.30	と初めてなる $t$ を	となる最初の $t$ を
78	上から8行目	4	§.31	囲まれた面積をその曲線の長さ	囲まれた領域の面積を $C$ の長さ
86	上から5行目	4	§.33	境界地問題の自明な正值解の存在	境界地問題の正值解の存在
87	上から11-13行目	4	§.33	は有界. よって…(中略)… $dx$	【11-13行目を削除】
88	下から12行目	4	§.33	利用しよう. 次の二点を	利用しよう. $f(0)=0$ に注意して次の二点を
89	上から4行目	4	§.33	となる $f$ の停留点	となる $f$ の臨界点
96	最下行	5	§.35	$ds \cdot \ y_1 - y_2\ $ .	$ds \cdot \ y_1 - y_2\ $ .
113	上から13行目	5	§.41	$0( y  +  z )$ .	$o( y  +  z )$ . 【小文字のオー】
116	下から11行目	5	§.41	$A$ は対角化行列	$A$ は対角行列
116	下から2行目	5	§.41	$x(s) = \int_0^{\frac{1}{2}} k(s-s')y(s')ds$	$x(s) = -\int_0^{\frac{1}{2}} k(s,s')y(s')ds$
117	上から2行目	5	§.41	を満たす対角型行列	を満たす対角行列
120	上から17行目	5	問題5：2.	$1/u_0 + \lambda$	$1/(u_0 + \lambda)$
132	下から7行目	6	§.44	$V \times V$ 上に	$V \times X$ 上に
140	下から14行目		付録§A： 定理A.1	$p(x) < 1$ , $x$ が $K$ の境界点	$p(x) < 1$ , $x$ が $K$ の境界点 【間隔詰める】
144	下から11行目		付録§D.	$+\frac{1}{2} \int_S u_v^2(x \cdot v) dS$ .	$+\frac{1}{2} \int_S u_v^2(x \cdot v) dS$ 【ピリオド削除】
148	上から4行目		問題の解答： 問題4：1.	$\geq 2A \ x'(t)\ ^2 - = -2A \frac{d}{dt} F(x(t))$ .	$\geq 2A \ x'(t)\ ^2 = -2A \frac{d}{dt} F(x(t))$ .
149	下から5行目		問題の解答： 問題6：4.	$- \left[ -(1-\Delta)^{-1/2} (u^p - u) \right]$	$- \left[ (1-\Delta)^{-1/2} (u^p - u) \right]$
149	下から2行目		問題の解答： 問題6：4.	$+ \left[ -(1-\Delta)^{-1/2} (u^p - u) \right]$	$+ \left[ (1-\Delta)^{-1/2} (u^p - u) \right]$
153	右段上から5行目		索引	下に弱半連続	下に半連続